

「屋仁小学校の三味線・島唄・八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立屋仁小学校

2 学年・人数

全校児童（計16人）

3 場所・日時

(1) 練習の場所・日時

年間を通じて（年間17時間） 屋仁小学校ふれあいホール

(2) 発表の場所・日時

八月踊り（9月）、秋季大運動会（10月）、子ども会種おろし（11月）
学習発表会（11月）、集落の各行事の終わりに踊る

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

屋仁三味線・島唄・八月踊り（やにしゃみせん・しまうた・はちがつおどり）

(2) 由来

奄美大島では、三味線に合わせて島唄を唄う、踊る風習が各地で存在する。屋仁校区では、旧暦8月最初の丙（ひのえ）、丁（ひのと）をアラセツ、中4日おいて、壬（みずのえ）、癸（みずのと）をシバサシといい、この4日間に八月踊りを行っている。

(3) 構成等

八月踊りは校区の高齢者の唄に合わせて、老若男女が集い踊る盛大な行事の一つである。浜下れ、送り盆、運動会など様々な行事の際にも踊られており、子どもたちは幼いときから自然と伝統芸能を伝承していく。

5 保存会や地域との連携の具体

三味線については地域の指導者を講師に招き、月に3回程度3年生以上の児童が練習に励んでいる。最初は難しそうであるが、練習を重ねるごとにどんどん上達していく。高学年ともなると手元を見ずに美しい音色で奏でることができるようになる。もちろん職員も子どもたちと一緒に練習をし、指導者の一人となって指導していく姿が頼もしい。練習の成果は、学習発表会や保護者や地域の方々も大変喜ばれている。島唄の全国大会に出場するほどの実力をもった児童もいる。

八月踊りは、三味線の練習の後、3年生以上の児童全員が輪になって踊る。歌詞が難しいが、歌詞カードを見ながら唄っているうちに、徐々に覚えていくようである。

地域の方を招いての指導は少ない時間であるが、児童は幼いころから八月踊りに慣れ親しんでいる。踊りや唄を自然と伝承していく。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

奄美大島各地で行われる八月踊りは、地域によって歌や踊りが異なる伝統芸能である。少子化・高齢化に伴い伝承者が減り、八月踊りが消滅してしまった地域もある。そこで地域の指導者と学校長が八月踊りの唄を本にまとめる計画を立て、現在作業を進めている途中である。

7 取組の様子



地域の指導者を招いて



送り盆にて八月踊り



息の合った高学年の演奏



運動会の最後に八月踊り

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童より】

三味線の音色が大好きで、練習しているうちにだんだんと上手になってきた。今度音楽発表会で、島唄や三味線をするので楽しみです。

【指導者より】

初めて体験する3年がどんどん上達している。高学年になると自分たちでも演奏できて頼もしい。先生方も一緒に練習しているので、指導者が増えることが心強い。

【教職員より】

子どもたちの上達ぶりは、目を見張るものがある。私たちが奄美の文化に触れていることを実感している。子どもたちと一緒に練習できることがありがたい。